

「3・11いわて教会ネットワーク」ニュース

Vol.5 2011年5月8日



生鮮食品の配達

約3週間に渡って支援を続けている地域にて、肉、牛乳、野菜などの生鮮食品を購入。仕分けした上で田老地区の孤立集落へ届けました。流通が回復している現地近くの店で調達することが、現地での経済的復興支援です。

野菜の仕分け

青森からたくさんの野菜や果物が届きました。それらを仕分けして下さる方々もたくさん到着されました。一つ一つ丁寧に仕分けされ、被災地に届けられます。盛岡聖書バプテスト教会にて。



山田と大船渡で炊き出し

29日に山田町南小学校で、30日に大船渡市盛町カメラホール前で、炊き出しが行われました。山田では約400人の方々にうどんを、大船渡では約300人の方々にバーベキューとごった煮を提供しました。(裏面記事参照)

側溝の泥の掻き出し

側溝の泥の掻き出し作業に一人黙々と励んでおられるお年寄りを発見。北海道のチーム10名が駆けつけて下さり、ともに作業にあたりました。側溝に水が通るようになるまでに10人がかりで2時間はかかったようです。(裏面記事参照)



被災地支援活動報告

4月26日(火) 田老

先週、在宅避難者の方々に食料をお配りしていた時のこと。津波が運んできたあらゆる種類の瓦礫、木くず、泥で塞がれた側溝に入り、泥だらけになりながら一人黙々と作業しておられるご老人の姿を発見。お年を聞けば80代。側溝の距離は長く、水が再び流れるようになるまでの道のりは果てしなく遠く、正直、無謀な作業に思われる。

食料配布を終えた北海道チーム10人が駆けつけて下さり作業に取り掛かること1時間、2時間…はたして水がちょろりと流れ出した時には感動。つまりはこういうことなのだろう。復興までの道のりは果てしなく遠く、教会が果たすべき役割を思う時に気が遠くなる。でも与えられた関係を通し、目の前の事柄に、誠実に、地道に取り組み続けるその先に、やがて生けるいのちの水が流れ出る様を見ることになるのだ。寡黙なご老人の笑顔に教えられたこと。(近藤愛哉)

4月29日(金) 山田 / 30日(土) 大船渡

29日(金)山田町南小学校で、30日(土)大船渡市盛町カメラホール前で、それぞれ炊き出しを行いました。ホープジャパン関係の3チームに、北上チーム(教会から4名と黒沢尻東小「うで組」9名)の合同チームによる二日間の働きでした。山田では約400人の方々にうどんを、大船渡では約300人の方々にバーベキューとごった煮を提供しました。

山田町では予定より大幅に遅れての提供開始となってしまう、お待ちくださった皆さんには大変申し訳なかったです。お待ち頂いている間に持ち込んだ物資を選んでいただいたり、お話を聴かせて頂いたりできましたが、段取り、チーム間の連携、リーダーシップに関しては大いに反省点が残りました。

翌日の大船渡ではそれが活かされチームとしては大いに成長したように思います。今後の活動に今回の経験が活かされることを期待します。

大船渡では、大船渡聖書バプテスト教会のことを知っておられる方々とお話ができ、小さな教会であってもちゃんと存在感を持って証しがなされていると励まされました。(佐々木真輝)

4月下旬より5月上旬にかけて支援活動に従事して下さった諸団体

ホクミン(北海道クリスチャン・ミッション・ネットワーク)、3・11 あおもり教会ネットワーク、同盟基督教団、アメリカンバプテスト宣教団、JECA 湘南、IBF(インターナショナル・バイブル・フェローシップ)、KKG(キリスト者学生会)、ホープ・ジャパン、クリスチャンプレイズチャーチ(小牧)、湘南グレースチャペル、郡山キリスト福音教会、練馬バプテスト教会、バプテスト教会連合、リーベンゼラ宣教団、宮古コミュニティチャーチ、盛岡聖書バプテスト教会、北上聖書バプテスト教会、盛岡みなみ教会、盛岡チャペル、水沢聖書バプテスト教会

(その他、多数の方々が個人としてチームに合流し、支援活動にあたって下さいました。)

一つ一つのご奉仕に、心から感謝致します。